

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立桜木小学校) 学校番号 047

【様式】

学校教育目標	「ちからいっぱい」 やさしく・かしこく・たくましく ～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と、未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～
目指す学校像	「笑顔と希望にあふれ、みんなに愛される学校」 ～「認めて育てる」教育の推進～

重点目標	1 子ども一人ひとりのwell-beingを育むための組織づくり 2 教職員の個性を生かした活気ある教育活動の推進・充実 3 コミュニティ・スクールを活かした特色ある学校づくり 4 安全で美しい教育環境の整備と適切な予算執行 5 SSSPによる「教え方」「働き方」の改善・向上
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学校自己評価				学校運営協議会による評価		
		年度目標		年度評価		実施日令和8年2月19日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、全市平均と比べ良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、「学習に対する関心・意欲・態度」に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ理科、算数、社会でやや高く、国語、G・Sでやや低い。 ○児童のICT能力が高く、日頃の学習では意見交換や調べ学習等でタブレット型コンピュータを積極的に活用して学びに向かう児童が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、習熟の二極化と、根拠や理由など自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ○学習内容の理解度と比べて学習への興味・関心が十分に高まっておらず、児童が学習の意義を実感できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着と学びの自律化に向けたICTの活用、授業改善 ・一人ひとりのWell-Beingを大切に「未来の教育」づくり(学び方・教え方・働き方の向上) 	<ol style="list-style-type: none"> ①「学びの指標」を生かした授業の達成状況について各教員が客観的に振り返り、授業力向上を図る。特に、授業ではICTを活用した自己の学びを振り返る時間を設定し、児童が自己の課題を把握できるようにする。 ②教科担任制を充実させ、かつICTを効果的に活用し、自分の思いや考えを表現する力を高めたり、児童同士で意見等を共有して表現したりする授業を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各種学習状況調査の学習に関する質問項目において、80%以上の肯定的な回答が得られたか。全国学力・学習状況調査における質問項目「課題解決に向けた取組」において、95%以上 (R6:95%) の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」の児童の達成率や市学習状況調査の学習に関する肯定的な回答率の割合が共に85% (R6:82%) 以上となったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全国学力・学習状況調査における質問項目「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む」で95%、「友達や周りの考えを大切にしたい、お互いに協力しながら課題の解決に取り組む」で99%の肯定的な回答が得られた。(市学習状況調査の結果は未送付) ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」における児童の肯定的回答率の平均は86%であった。一方で、「わからないことは、先生に質問しているか」は78%にとどまった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて自分で考えたり、友達と協力したりする姿が見られ、学習への前向きな態度が着実に育ってきている。次年度は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、どの児童も安心して活動に参加し、自分の力を発揮できる学級づくりをさらに進めたい。その上で、授業の中で「分からないことを質問できる」児童を増やし、主体的な学びを促す環境づくりを目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で考えたり友達と協力したりする姿が増え、学習に前向きに取り組む態度が育っている点が評価できる。 ・学年の実態に応じた授業改善も進み、学んだことを生かす場面に児童の工夫が見られることを肯定的に受け止めている。 ・「質問できない児童が多い」「授業で質問する時間を増やしてほしい」との指摘もあり、児童が安心して発言できる環境づくりが課題ではないか。 ・次年度に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、児童が疑問を積極的に表現できる学習環境の推進を期待する。
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市学習状況調査で、設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は高く、設問「自分にはよいところがある」では低い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員間で「認めて育てる」という方針を具体化・共通理解できたことで、自尊感情の高い児童が増加したが、学年・学級で指導や声かけ等にバラツキがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を育む、児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①年度当初に「元気アッププロジェクト」について全教職員で共通理解を図り、教職員の個性や持ち味を生かした活気ある教育活動を推進する。 ②スクールダッシュボードや定期的なアンケート・面談の実施、SoLaの一むの効果的運営により児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各種児童アンケート「自尊心」や市学習状況調査「学校は楽しい」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が88% (R6:85%) 以上となったか。 ②学校評価の教職員アンケートの項目「教育支援・相談」において100% (R6:99%) 達成、保護者アンケートの項目「家庭への連絡」において95% (R6:93%) 以上の肯定的な回答が得られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①児童の学校評価項目「ほめてくれる」において、96%の肯定的な回答が得られた。 ②学校評価の教職員アンケートにおける「教育支援・相談」(8項目)においては平均99%、保護者アンケートにおける設問「家庭への連絡」においては93%以上の肯定的な回答が得られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気アッププロジェクト」をはじめとした日常的な関わりを通して、児童の自己肯定感を育む取組が継続的に進められた。教育相談週間や定期アンケートによる面談、また「おはようメール」やSoLaルームの活用により、児童の状況を把握する仕組みも機能している。次年度は、得られたデータをより的確に分析し、支援の必要な児童に迅速かつ組織的に対応できる体制をさらに強化していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気アッププロジェクト」や相談週間、アンケートを通じて児童の状況を把握し、自己肯定感を育む取組が継続されている点が評価できる。 ・引込み思案で気持ちを表しにくい児童への支援を求める意見もあり、安心して相談できる環境づくりの強化を期待したい。
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度コミュニティ・スクールに関する情報をHPで発信し、学校行事や親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタ等を通して学校・家庭・地域全体との結びつきを強めることができた。 ○児童・保護者の悩みやトラブル、いじめや問題行動等に対して家庭やSC、SSWと連携しながら、迅速かつ丁寧に対応することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童と地域が繋がる場を広げ、学校と地域が協働して地域総がかりの教育を実践していく。 ○挨拶等を通して顔の見える関係づくりを進め、学校と地域、関係する諸団体との結びつきを確かなものにしていく。また、地域全体の望ましい人間関係づくりや地域教育力の向上を目指し、児童を守る防犯・防災体制も整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童像を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・トラブル等における適切な対応と地域総がかりによる挨拶を通じた地域教育力の向上 	<ol style="list-style-type: none"> ①各種ボランティアや地域諸団体による協力や、本校HPを通して学校運営協議会及びSSNの情報を発信して学校の様子等を家庭、地域と共有する。 ②運動会の充実や、地域懇談・育成会等への参加、地域の方を招いた給食試食会の実施等を通して、学校の情報提供と共に、要望等にも耳を傾ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価の保護者アンケートで、「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答する割合が96% (R6:96%) 以上となったか。 ②学校自己評価の保護者アンケートで、「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答する割合が95% (R6:95%) 以上となったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価の保護者アンケートにおける設問「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答した割合が96%であった。 ②学校評価の保護者アンケートにおける設問「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答した割合が95%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタなど、学校行事等を通して児童と地域が関わる機会を広げることができ、多くの保護者にもクリーン活動などで協力を得られた。今後も、各種お便りや発信の工夫を通して、児童の学びや学校の様子を継続的に家庭・地域へ共有し、協働による学校づくりをさらに推進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や3世代ふれあいフェスタなど、地域と児童が交流する行事が充実している。 ・保護者のクリーン活動など、家庭・地域の協力が得られている。 ・「大人との接点が少ない児童もいるため、地域とのふれあいの場をさらに広げてほしい」「平日の行事では参加しにくい家庭がある」との意見があり、日程設定や情報発信の工夫をお願いしたい。 ・児童の悩みやトラブルへの対応は、家庭やSC・SSWと連携して丁寧に行われており評価できる。
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4月現在の保健室の利用状況は156人となっていて決して低い値とは言えない現状である。来室理由は、けがが約7割、病気が約3割である。 ○定期的に安全点検を行い、修繕が必要な場所について適切に対応してきた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童は事故やケガ防止の当事者意識が低く、「健康について関心はあるが、ケガや病気を未然に防ぐ」という点について児童の自覚や、教職員の指導の在り方に課題がある。 ○経年劣化も含めて修繕が必要な場所に適切な対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検と修繕等対応を適切に行う。 ・計画的に適切な予算執行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月の安全点検の報告について事務や教頭と情報を共有し、速やかに対応する。(通年) ・事務職員と常に情報を共有し、12月までに旅費等適切な予算執行を終える(12月まで) 	<ol style="list-style-type: none"> ①安全点検後の修繕等対応未実施1件以下にしたか。 ②12月末の予算執行80%以上にすることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①安全点検後に要望箇所の確認を100%達成し、対応未実施1件以下にした。 ②12月末の予算執行80%以上にすることができた。年度末までに計画的に執行を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検後の報告と要望箇所の確認を次年度も速やかに実施していく。必要な修繕箇所は、適宜、事務職員等と連携し、施設の安全管理の徹底を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検後の対応や修繕が適切に行われ、児童が大きな事故なく過ごすことができたことは高く評価できる。
5	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的にICTを活用する姿がみられるようになり、昨年度には「個別最適な学び」研究指定校として、研究発表会を開催した。 ○高学年教科担任制により、担当教科における深い教材研究を行うことができています。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの効果的な活用方法については、学校DX推進部が中心となり検討・周知する。 ○校内研修や学年会で、個々の悩みや課題等を適時共有し、主体的な研修の充実を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい学校をつくる研修の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①学期に1回以上、スクールダッシュボードを含めICTの効果的な活用方法について学ぶ研修を実施する。 ②高学年教科担任制により複数教員で学年児童の様子を多面的にとらえ、ともに、各教科の専門性を高めることで児童理解と授業改善を行う。 ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、教員が個人課題を設定し、実践に取り組み、学校全体の授業力が高まる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価の教職員アンケート「視聴覚教材の活用」において100% (R6:100%) の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価の児童アンケート(高学年)で、「授業の内容が、よくわかる」と肯定的に回答する割合が100% (R6:99%) となったか。 ③全ての教員が授業改善を行い、学校自己評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強く思う」回答の割合が25% (R6:22%) 以上となったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価の教職員アンケートの項目「視聴覚教材の活用」において肯定的な回答が90%であった。 ②学校評価の児童アンケートの「授業の内容が、よくわかる」で高学年児童が肯定的に回答した割合が99%であった。 ③全ての教員が研修グループ内で授業公開と授業の振り返りを行った。学校評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強く思う」と回答した割合が36%となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の実態に応じたICT活用が定着し、授業の分かりやすさにもつながっているが、活用の質には学年差が見られる。次年度は、より効果的な活用をめざし、授業改善と結びつけた研修を進めていきたい。また、高学年の教科担任制については児童の理解度が高く、引き続き取り組むが、教科を越えた連携を深めるために、教員が協働して指導を確認し合う時間を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用が授業の分かりやすさに寄与していることや、高学年の教科担任制の効果が評価できる。 ・教員に余裕をもって働いてほしい。研修の充実と働き方の改善を両立させる必要性があるのではないかと。 ・次年度は、ICT活用の質向上と教科間の連携強化が、教職員のキャリア形成の促進を期待したい。

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともに関わる取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組